

■コメント

1. マイコプラズマ肺炎

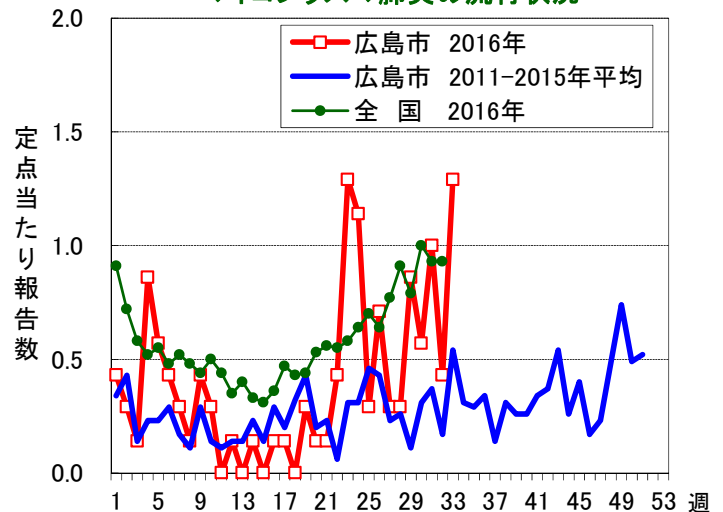
定点当たり1.29人と、例年同時期に比べて報告数が増えています。全国的にも報告数が増加していますので、手洗い・うがいの励行など感染予防を心がけましょう。

2. 日本紅斑熱

今年初めて1件の報告がありました。(次頁参照)

第33週はお盆期間中であり、医療機関の休診の影響で、実際の患者数よりも少なく報告されている可能性があります。そのため、「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

マイコプラズマ肺炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	6	0.26	0.48	
小児科	咽頭結膜熱	17	0.74	0.39		眼科	RSウイルス感染症	13	0.57	0.25	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	1.22	0.50		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	68	2.96	2.17		眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	0.84	
	水痘	5	0.22	0.49		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	4	0.17	1.70			無菌性髄膜炎	-	-	0.23	
	伝染性紅斑	4	0.17	0.13			マイコプラズマ肺炎	9	1.29	0.17	
	突発性発しん	6	0.26	0.33			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	-			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	3	0.13	0.82							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	100	女性(50歳代)、男性(60歳代)、男性(70歳代)、男性(80歳代)
4	日本紅斑熱	1	1	女性(60歳代)・市外
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	17	女性(60歳代)
5	梅毒	1	14	女性(90歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第29週 第30週 第31週 第32週 第33週	インフル エンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第29週	1	23	36	79	9	4	14	6	1	18	20	6	-	5	-	1	6	-	-	-
		第30週	-	16	38	91	15	6	20	4	3	23	22	8	-	4	-	1	4	-	-	-
		第31週	-	11	30	100	12	4	17	11	-	19	17	18	-	6	-	-	7	-	-	-
		第32週	-	14	22	86	7	-	9	10	-	8	10	18	1	2	-	-	3	-	-	-
		第33週	-	17	28	68	5	4	4	6	1	3	6	13	-	3	-	-	9	-	-	-
定点当たり	広島市	第29週	0.03	0.96	1.50	3.29	0.38	0.17	0.58	0.25	0.04	0.75	0.83	0.25	-	0.63	-	0.14	0.86	-	-	-
		第30週	-	0.67	1.58	3.79	0.63	0.25	0.83	0.17	0.13	0.96	0.92	0.33	-	0.50	-	0.14	0.57	-	-	-
		第31週	-	0.48	1.30	4.35	0.52	0.17	0.74	0.48	-	0.83	0.74	0.78	-	0.75	-	-	1.00	-	-	-
		第32週	-	0.67	1.05	4.10	0.33	-	0.43	0.48	-	0.38	0.48	0.86	0.13	0.25	-	-	0.43	-	-	-
		第33週	-	0.74	1.22	2.96	0.22	0.17	0.17	0.26	0.04	0.13	0.26	0.57	-	0.38	-	-	1.29	-	-	-
	全国	第31週	0.02	0.42	1.53	3.59	0.28	0.75	0.24	0.49	0.02	3.62	1.17	0.34	0.01	0.81	0.03	0.07	0.93	0.01	0.01	0.01
		第32週	0.03	0.36	1.08	2.89	0.26	0.57	0.16	0.42	0.02	2.58	1.05	0.35	0.01	0.62	0.02	0.08	0.93	0.01	0.01	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱(37.7) 項部硬直 頭痛 髄膜炎	6	女	2016/06/14	髄液	ムンプスウイルス
その他の神経系疾患	発熱(38.7) 嘔吐 下痢 歩行・起立困難 独座ふらつきあり	3	男	2016/06/24	髄液	コクサッキーウイルスB5型
その他の循環器疾患	発熱(39.0) 循環不全	0	男	2016/07/14	咽頭拭い液	パレコウイルスNT

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】野山のダニによる感染症に注意しましょう

-日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／つつが虫病-

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに吸着されることにより感染する病気です。

2～8日の潜伏期間を経て、頭痛、発熱、倦怠感を伴い発症します。症状の主な特徴は、発熱、発しんで、ダニの刺し口も見られることがあります。マダニの活動が盛んな春から秋にかけて患者が発生しています。このほかに、SFTSやつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

- ・野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックしましょう。

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2016年第33週(8月15日～8月21日)